

◀2019 弦楽器フェア▶ 特別講演会

◆日時：11月1日（金）18：15～

◆場所：科学技術館サイエンスホール（定員：400名）

◆講演タイトル：「弦楽器の鑑定プロセスと先進技術」

◆入場料：¥1,000- “弦楽器フェア入場券”と共通

◆講演者：エリック・ブロット Eric Blot / フロリアン・レオンハルト Florian Leonhard

◆講演概要：

- ・前半 エリック・ブロット「鑑定のテクニカルな視点」
- ・後半 フロリアン・レオンハルト「贋作問題の視点」
- ・質疑応答

◆同時通訳による講演

◆全体の主旨：

今日の弦楽器の鑑定の世界において、オールド及びモダンの弦楽器を鑑定するにあたり、鑑定家はより客観的で公正な鑑定技術を求められている。鑑定家は長年の経験に裏打ちされた鑑識眼に加え、他の分野と同様、テクノロジーの力を借り、木目の年代、ニス等の質等、物理的な判定ミスを最小限に抑え、確固たる鑑定を行い、買い手が経済的な損失を被らないよう、また、弦楽器業界の市場が健全なものになるように努める必要がある。従来、封印されがちだった鑑定の世界を専門家に語ってもらい、今の時代の鑑定に何が求められているのかを提議する。

前半：〈講演者〉エリック・ブロット（40～45分間）

「鑑定家の鑑識眼と最新テクノロジーによる鑑定技術の現在」

弦楽器製作者であり、40年に渡り鑑定家として第一人者であるブロット氏が、鑑定及び鑑定書作成にいたるまでのノウハウについて具体例を示しながら伝授する。鑑定の参考とするのは、専門書、デンドロクロロジー解析、CTスキャン、UV透過をした画像、弦楽器のフォトライブラリー等であるが、最終判断するのはやはり、経験を積んだ鑑定家の鑑識眼である。

プロフィール:クレモナのヴァイオリン製作学校にて **Giobatta Morassi** と **Giorgio Scolari** に師事。その後、パリで製作の技術をさらに磨き、同時に **Frederic Boyer, James Chauvelin** に修復技術を学ぶ。イタリアのペルージャにて独立後、クレモナに工房を開設し現在に至る。19世紀、20世紀のイタリアの弦楽器に造詣が深く、その研究において著作物等で多くの業績を残している。

後半:〈講演者〉フロリアン・レオンハルト (40~45分間)

「弦楽器の贋作、真贋問題について」

鑑定家・ディーラーとして、長年のリサーチや弦楽器業界の関係者から収集したデータの中から、市場に出回っているストラディヴァリウス、デル・ジェス、ポッジなどの贋作楽器の具体例を dendrochronology 解析の結果などを示しながら紹介。世界の弦楽器業界の未来のために、この問題とどう向き合っていくべきかを提言する。

プロフィール:ドイツ・ミッテンワルトにある弦楽器製作学校を卒業後、名門「ウィリアム・ヒル&サンズ」社に勤務、責任者となる。退社後、ロンドンで独立し「フロリアン・レオナード」社を設立。世界で活躍する鑑定家、ディーラー、修復家の一人。クレモナでの弦楽器製作コンクール「トリエンナーレ」で審査員を務めたこともある。